

子ども・青年の発達と父母・住民の教育参加

あいにくの雨になってしまいました。三日間の参加ご苦労さまでした。昨夜おそくに開かれた世話人会での各分科会の報告にもとづいて、私なりの総括を報告します。

大会本部のまとめによると、参加者は全体で約五七〇名でした。北は北海道から南は九州まで、年齢幅で申しますと、お母さんに連れられてきたお子さんは別として、若い方は十代の学生さんから、年長の方は長く教科研に参加してこられた七〇歳とか七一歳とかいわれる教師まで広がっています。職種でみると幼稚園・保育所の保育者・小学校・中学校・高等学校・大学の教師・養護教諭・事務職員・栄養士、社会教育関係者、前教育長など多様な方がたが参加されました。全体として半数ないしそれ以上の

方が教科研大会へは初参加だったそうです。これらの方がたの教科研との初めての出会いが充実したものであったことを願ってやみません。

各分科会ごとの細かな内容を紹介するのではなく、今日の私たちのおかれている状況との関係でみた若干の特徴、それから、私も本大会に掲げましたテーマとの関係でみた若干の特徴という点にしぼって報告します。

大会へき頭の大田委員長のあいさつの中に、今日私たちがおかれている日本の教育の状況は生やさしいものではないという指摘がありました。そういう中で私どもは報告討論をしてきたわけですが、「社会認識と教育」の分科会では中学校社会科の公民の場

佐々木 享

科書、および最近新聞等でも問題が報じられている高校の「現代社会」の教科書の内容について詳細な批判的分析をくわえた報告がありました。また教科書問題にも直接に関係しますが、同分科会では、今日の日本がおかれている政治状況との関係で平和教育というものの意義をとりわけ重視する必要があるという主張が出されました。平和教育をテーマとした交流懇談会において論点はさらに深められたものと思います。

今大会のはじめのつどいでは、実践報告の一つとして東京の早乙女さんから中学生の非行・暴力の問題とその克服という問題についての報告がありました（口絵写真四ページ、迫力ある実践報告の早乙女さん）。

この問題については、「道徳と教育」分科会と「能力・発達・学習」分科会との合同の分科会がもたれ、早乙女さん、木元さんからさらに詳細な報告があつて論点が深められました。同様の問題は中学生問題の交流懇談会でもとりあげられました。これらの報告と討論を無理を承知であえて要約して言えば、子どもに対する教師の信頼がどのくらい深いのが問題となるようです。これは、同じく早乙女さんが指摘した教師集団の教育の質という問題に関わるようです。今日子どもがおかれている状況を深く理解する、子どもの言い分をとことん聞いて深く理解をするということに基礎をおかないと、子どもへの信頼が表面づらになつてしまふし非行を克服することもなかなか難しい。しかし、私たちが子どもたちを、その生活や心の内面にまで深く立ち入って理解し、信

頼していくならば非行を克服していくことは可能であるというように話が話し合われたように思います。

「子ども・青年の発達」という問題に関連しては、「子どもの生活と文化」の分科会で最近の子どもたちの遊びが大変貧困になっている、あるいは日常の語彙が非常に貧弱になっている、なコントロールがきかない子どもが増えている、朝、排便をしない子どもが多いというような、これまでもしばしば指摘されてきたことが報告されましたが、その他に、授業中におしっこに行きたいという子どもが非常に増えてきたとも報告されました。こういう状況の中で子どもたちの自律性を育てるということが、多くの分科会の重要な話題の一つになっています。

これに関連して「身体と教育」分科会では、保健室の養護教諭の先生から——非行に走ったりする子どもたちはえてして保健室へ来ることが多いのですが——そういう子どもたちとの接触を通して子どもたちの健康と生活を回復する課題に取り組んだすばらしい実践が報告されました。この実践は、後ほど報告される予定です。

「青年期教育」の分科会が近年次第に大きくなっていることは教科研大会の最近の特徴の一つですが、今年のこの分科会の特徴の一つは雑誌『教育』やこの教科研大会等で報告された実践の討論対象と言いまじようか青年自身に登場していただき、青年自身の口から自立の過程、成長の過程を語ってもらうという大変感激的

な報告討論が行なわれたことです。そのうちの一人である森田さんからは、後ほどこの壇上からご自身の成長と自立の過程を語っていただく予定です。この問題に関連しては、恵那の中学校の「野麦峠を越える」という実践が特徴的であったということです。

野麦峠、恵那山そして広島の峠を越えるという実践を通して子どもたちに学ぶ意味を体得させ、学ぶことに希望をもつことを教えるという実践です。なお子ども・青年の発達を保障していく上で、教職員が互いに分断させられている状況があつてこれが大きな障害になっている。つまりこうした教職員の状況に対応して子どもたちが荒れているという指摘がありました。そういう中で教職員の人的なふれ合いが非常に大事になってきていることをめぐって、その状況と実践が「学校づくり」の分科会で報告されています。

「父母・住民の教育参加」という問題に関連しては、大会冒頭に三上さんから東京・中野区の教育委員選挙運動についての報告がありました。幾つかの分科会でこの問題についていろいろ深められました（口絵写真一ページ、報告する三上昭彦氏）。たとえば「政治と教育」分科会では、地域の父母、父母ばかりではなく祖父母が地域の学校の教育に参加していく、「祖父母と共に作る社会科の授業」ということで社会科の授業をする時には必ずおじいさんおばあさんの話を聞いてきなさいというようなことから始まって、やがて老人会の方が積極的に乗り出してきて、老人会の旅行計画をとりやめにして学校へ行って社会科の授業を教

えるというふうなことになる。という報告がありました。その他「道徳と教育」の分科会では私立の幼稚園に子どもを連れてくる母親たちが「母親の会」を通して保育に参加したという実践報告がありました。

私たちの大会テーマは、教師にとつては日々の教育実践の中で確かめていかなければならない課題ですが、いうまでもなく、教科指導の問題についても立ち入った報告・討論がありました。例えば「自然認識と教育」分科会では、事実認識から法則認識へ、そしてその環の形成へということをテーマにしていますが、その中で中学校の理科の授業で、原子の中に回っている電子から見た世界という報告がありました。原子核と電子との距離は、電子の大きさを自分くらいと考えるとどのくらいの距離になるかを調べてみると、五十何キロメートルという距離になる。普通私どもはすぐ近くにあるように書かれている絵を見ているわけですが、何と言うんでしょうか、子どもの認識をひっくり返してしまふような事実の世界を教えることによって、子どもたちの認識を少しずつ高めていくという実践報告です。その他に高等学校の物理——現行の高校の物理の教科書は大変問題の多い教科書の一つですが、その物理の授業を一時間、一時間のプリントを通して変えていった私立高等学校での授業実践もありました。「社会認識と教育」分科会では四本の実践報告がありました。

「外国語教育」の分科会については、実を言いますと大会要項のなかに外国語分科会解散の辞みたいな感じのこともありました



ので、ひそかに気にかけていたのですが、今年の分科会では、教科指導の問題をめぐって、きめの細かい討論がなされたというところで。すぐれた教材を用意することは非常に大事なことで、感動的な教材を用意することも大事なことです。アメリカのあるいはイギリスの中流家庭を基準にした教科書ではどうにもならないということは長く言われてきましたけれども、そういう教材選択の問題ばかりではなく、教材を使って外国語を学習させるということについては、やはり基本的な問題についてきめ細かに指導していく必要があるわけで、そういう指導過程についてきちんと研究していくことが非常に重要だということが討論の中で確認をされてくるようになったという事です。

私の参加した「技術と教育」という小さな分科会では、小学校五年生にわたから糸をとり出す、という実践報告がありました。参加者全員にわたしが配られ、これから糸を作り出してごらんなさいとやられたわけです。指だけではできませんが、ちょっとした道具であるツムを使うと糸をとり出

すことができます。糸を紡ぐという人類史の中でも大変重要な技術史上の一過程を実際に即して教えた実践報告でした。

最後になりますが、「自然認識と教育」分科会では恒例の自然散策が今年「伊豆の自然観察」ということで地元の先生方のご協力によって行なわれ、大変楽しかったとのことでした。

昨夜の世話人会の任務の一つは、おわりの集いで全体の参加者に実践報告をしていただく人を決めることでした。その実情を申しますと、多くの分科会から多数の候補がおされて選択に苦しむという経過があり、多くの分科会の報告討論が充実したものであったことを実感した次第でした。今次大会のへき頭に大田先生が申されましたように、私たちをとりまく状況には二十五年前とは質的に違った厳しさがありますが、しかしこの二十五年間に私どももまた大きく成長していることを痛感いたしました。

この集会で討論し学び取ったことをこれからの研究と実践に活かしていくことをお互いに確認し、報告をおわります。

(教科研常任委員・名古屋大学)

アメリカから東大へ
留学生としてこられた
フラットアさん。
ケリーローズさん
(女性)とともに第
3分科会に参加しました。

